

令和 6 年度（2024 年度）
一般社団法人 海峡都市関門 DMO
事業報告

自 令和 6 年 4 月 1 日
至 令和 7 年 3 月 31 日

I. 法人概況

(1) 本年度総括

一般社団法人海峡都市関門 DMO（以下、関門 DMO）は、2023 年より観光庁の「登録観光地域づくり法人」に認定され、持続可能な観光の推進に向けた観光指標として JSTS-D の認証規格を受領いたしました。また、市境を越えて「ひとつの海のまち」として国内外の観光客をお迎えするため、北九州市・下関市の行政機関、民間企業・団体、大学との協力体制を構築し、観光推進に努めてまいりました。

今年度の取り組みといたしましては、持続可能な観光の国際基準である「GSTC-D (Global Sustainable Tourism Criteria for Destinations)」、および観光庁の「日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D)」の管理評価指標を踏まえ、今後の目指すべき将来像を策定するなど、次世代を見据えた観光地域づくりに注力してまいりました。さらに、観光庁外客受入部署のご担当者様や外部の有識者の皆様にご協力いただき、観光誘客や地域振興に関するセミナーを実施いたしました。

これらの成果として、関門海峡内のインフラに注目した観光コンテンツの造成を推進いたしました。また、国内外で関心が高まっている防災・危機管理の観点から、港湾・観光都市である門司港の関門海峡ミュージアム内に体験型防災コンテンツを造成いたしました。楽しく学べる防災訓練を導入するとともに、常設施設としては世界初となる流動床インターフェースを活用した「液状化通路歩行体験施設」を設置いたしました。

今後も多様な関係者の皆様との合意形成を図り、協働しながら観光誘客や旅行消費の拡大を目指し、持続可能な観光地域づくりを一層推進してまいります。

(2) 沿革

2020 年（令和 2 年）10 月 2 日	一般社団法人 海峡都市関門 DMO	設立
2021 年（令和 3 年）3 月 31 日	観光庁 候補 DMO（観光地域づくり法人）	登録
2023 年（令和 5 年）3 月 31 日	観光庁 登録 DMO（観光地域づくり法人）	登録
2023 年（令和 5 年）11 月 2 日	観光庁 JSTS-D 認証	取得
2023 年（令和 5 年）12 月 27 日	観光庁 2023 年度意欲ある DMO	認定

(3) 会議開催記録

☆ 関門観光企画営業担当者会議

山口県下関市、福岡県北九州市の観光事業者における情報共有会として、オブザーバーに両行政担当者の同席のうえ、2007 年発足以来、月に 1 度の定例会議を実施。エリア内のマーケティングデータの共有や今後の取組について議論を行なっている。

・ 第 199 回	2024/04/10	ふくの関長府会館
・ 第 200 回	2024/05/13	下関グランドホテル
・ 第 201 回	2024/06/10	関門海峡ミュージアム
・ 第 202 回	2024/07/08	ホテル西長門リゾート
・ 第 203 回	2024/08/19	下関グランドホテル
・ 第 204 回	2024/09/09	ふく処さかい
・ 第 205 回	2024/10/21	MOJISHO
・ 第 206 回	2024/11/11	阪九フェリー
・ 第 207 回	2024/12/09	海峡ビューしものせき
・ 第 208 回	2025/01/20	海峡プラザ会（港ハウス会議室）
・ 第 209 回	2025/02/10	春帆楼
・ 第 210 回	2025/03/10	白野江植物公園

※DMO の事業説明においても同会議と同時開催で実施

II. 事業実施概要

2024 年度の関門海峡エリアの観光産業は、国内外からの観光客誘致において大きな変化を迎えました。クルーズ船寄港数は緩やかな回復基調にあり、また個人旅行客の動向が引き続き観光市場を牽引しています。国内旅行客については、経済情勢の変化にもかかわらず堅調な推移を見せ、旅行需要は安定しています。

特に外国人観光客に関しては、円安の継続が追い風となり、2023 年を上回るペースで訪日旅行者数が増加しました。これに伴い、旅行消費額も過去最高を更新する見込みであり、関門海峡エリアにおいても、インバウンド需要の本格的な回復が明確な兆候として現れています。

このような状況を踏まえ、関門 DMO では、回復期にある訪日外国人観光客の誘致をさらに加速させるため、地域内の周遊促進および観光消費額の拡大に注力してまいりました。具体的には、昨年度に引き続き観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」を活用し、多言語対応の強化を進めました。英語に加え、中国語（繁体字・簡体字）および韓国語での解説文整備に着手し、多様な国籍の観光客が関門海峡エリアの魅力に触れられるよう、情報提供体制を拡充しました。これにより、日本遺産をはじめとする地域の観光資源への理解促進を図っています。

また、観光客の多様なニーズに応えるため、地域ならではの体験型観光コンテンツの造成に注力しました。特に、関門海峡の歴史や自然、食文化をテーマにした新たなツアープログラムの開発や、地域住民との交流を促すイベントの企画を進めてまいりました。

さらに、地域経済の活性化を目的とした地域共通クーポン「かんもん Pay」の利用促進にも継続して取り組み、利用可能店舗の拡大やキャンペーン実施を通じて、地域内での消費喚起を一層図りました。

1. エリアセールス事業

関門海峡エリアの認知度拡大と来訪者増加を目指し、広報業務および営業活動を中心としたブランディング活動を実施します。具体的には、観光客誘致のため、国内外の旅行会社が参加する商談会へ積極的に参加し、営業活動を強化します。加えて、持続可能な観光を促進する観点から、関門海峡が有する日本遺産、国立公園、近代的なインフラといった多様な資源を効果的に活用した広報活動も展開します。

●国内セールス

訪問エリア	南九州エリア（鹿児島、宮崎、大分）
期間	2024 年 4 月 17 日～2024 年 4 月 19 日
目的	北九州観光コンベンション協会エージェントセールス
訪問先	・ 鹿児島県：4 社（JTB、日本旅行、東武トップツアーズ、名鉄観光） ・ 宮崎県：5 社（JTB、日本旅行、東武トップツアーズ、名鉄観光、宮崎ツアーサービス） ・ 大分県：5 社（JTB、日本旅行、東武トップツアーズ、名鉄観光、西日本ツーリスト）

訪問エリア	南九州エリア（鹿児島、宮崎、大分）
期間	2024 年 5 月 15 日～2024 年 5 月 17 日
目的	北九州観光コンベンション協会エージェントセールス 阪急交通社 商談会
訪問先	・ 宮崎県：5 社（JTB、日本旅行、東武トップツアーズ、名鉄観光、宮崎ツアーサービス） ・ 大分県：5 社（JTB、日本旅行、東武トップツアーズ、名鉄観光、西日本ツーリスト）

訪問エリア	瀬戸内エリア（広島・岡山・高松・福山）
期間	2024 年 9 月 4 日～2024 年 9 月 6 日
目的	北九州観光コンベンション協会エージェントセールス
訪問先	・ 広島：6 社（JTB、東武トップツアーズ、名鉄観光、たびまちゲート、T-LIFE、広交観光） ・ 岡山・高松：5 社（JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行、東武トップツアーズ、名鉄観光） ・ 高松：5 社（JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行、東武トップツアーズ、名鉄観光） ・ 福山：3 社（JTB、日本旅行、東武トップツアーズ）

訪問エリア	九州エリア（大分・宮崎）
期間	2025 年 3 月 11 日～2025 年 3 月 14 日
目的	エージェントセールス 自治体防災セールス
訪問先	- 大分 民間：5 社（JTB、日本旅行、東武トップツアーズ、名鉄観光、西日本ツーリスト） 自治体：5 市（大分県、大分市、別府市、臼杵市、津久見市） - 宮崎 民間：6 社（JTB、日本旅行、東武トップツアーズ、名鉄観光、阪急交通社、宮崎ツアーサービス） 自治体：9 県市町（宮崎県、宮崎市、延岡市、都農町、川南町、高鍋町、新富町、西都市、日南市）

●海外セールス

訪問エリア	韓国
期間	2024 年 6 月 25 日～2024 年 6 月 27 日
目的	エージェントセールス
訪問先	MIRAI JAPAN、KS Travel、HANJIN TRAVEL、MODETOUR、旅行博士

訪問エリア	香港
期間	2024 年 9 月 24 日～2024 年 9 月 26 日
目的	エージェントセールス
訪問先	EGLtours、Syosei Hong Kong

訪問エリア	台湾
期間	2025 年 2 月 3 日～2024 年 2 月 6 日
目的	エージェントセールス
訪問先	鳳凰旅游、雄獅旅游、百威旅游、東南旅行社、長汎假期、可樂旅游、五福旅游、晴日旅行社、大栄国際旅行社、山富国際旅行社、KIKO

●展示会など

出展	ツーリズム EXPO2024
期間	2025 年 2 月 3 日～2024 年 2 月 6 日
目的	北九州産業観光センターブースにて、防災&門司港レトロ紹介
訪問先	アポイント事業者：7 社 来訪事業者：33 社

2. エリアマネジメント事業

私たちは、国内ランドオペレーターのサポートや門司港レトロエリア関連事業を通して、地域と連携した受け入れ体制を整えています。具体的には、観光ガイドの育成・協力体制の構築に力を入れるとともに、観光施設の指定管理業務を支援することで、地域の観光受け入れ環境の向上を図っています。

さらに、持続可能な観光を実現するために、地域資源を最大限に活用した受け入れ体制の整備や運営の最適化を目指しています。これにより、観光客にとってより良い体験を提供できるよう、継続的に取り組みを進めていきます。

事業名：持続可能な観光に向けた取り組み

世界的に「持続可能な観光（サステナブルツーリズム）」への関心が高まる中、関門海峡エリアが世界の旅行者から選ばれる観光地となるためには、地域におけるマネジメント体制の構築、コンテンツの造成・工夫、受け入れ環境の整備を進め、オーバーツーリズムや気候変動といった課題にも対応した持続可能な観光の推進が不可欠です。

関門 DMO では、この取り組みを推進するため、2023 年度には、観光庁が実施する「持続可能な観光推進モデル事業」を活用し、地域におけるマネジメント体制の強化を図りました。具体的には、持続可能な観光を実践するために地域が目指すべき姿と課題を明確化し、これに基づいた施策の検討、実施、分析、そして改善に取り組みしました。

この取り組みの成果として、関門 DMO は観光庁が定める観光地マネジメントの指標である JSTS-D（日本版持続可能な観光指標）を取得いたしました。2024 年度は、この成果を踏まえ、GSTC（Global Sustainable Tourism Criteria）および JSTS-D に基づき、持続可能性に配慮した地域、旅行商品、宿泊施設の支援を行い、持続可能な観光の実現に向けた取り組みを一層推進いたしました。

本事業の一環として、以下のセミナーおよび勉強会を実施いたしました。

○第1回セミナー

日時：2024年4月24日

場所：下関グランドホテルにて開催（リアルおよびリモート併用）。

観光庁外客受入担当参事官付より、「持続可能な観光の実現に向けた取り組み」についてご講演いただきました。

○第2回セミナー

日時：2024年6月6日

場所：旧大連航路上屋にて開催（リアルおよびリモート併用）

一般社団法人サステナビリティ・コーディネーター協会（JaSCA）業務執行理事の久保竜太氏より、「世界のトレンドと地域の事例」についてご講演いただきました。

○第3回セミナー

日時：2024年7月2日

場所：旧大連航路上屋にて開催（リアルおよびリモート併用）。

株式会社サクラクオリティ・マネジメント代表取締役の北村剛史氏から「新たな軸となるSDGsと我が国における宿泊認証制度」について、株式会社リクルートじゃらんリサーチセンター研究員の松本百加里氏から「他都市での取り組み事例や海外トレンドの最新動向」について、それぞれご講演いただきました。

○JSTS-D アセスメント勉強会：

2024年6月12日、19日、26日、7月3日（計4回）

リモート形式で開催いたしました。

事業名：KANMON MY BOTTLE PROJECT（マイボトルプロジェクト）

一般社団法人海峡都市関門 DMO は、関門海峡エリアを訪れる方々の快適な観光体験の提供と、持続可能な観光の推進を目的として、「KANMON MY BOTTLE PROJECT」を実施いたしました。本プロジェクトは、「FROM ONE BOTTLE, FOR ONE OCEAN（一つのボトルから、一つの海のために）」をスローガンに掲げ、マイボトルの利用促進と使い捨てプラスチックごみの削減を通じて、環境保全への貢献を目指したものです。

世界における年間ペットボトル消費量は 2016 年時点で約 4,800 億本に上り、1 分間に 100 万本、1 秒で 2 万本が消費されております。また、毎年 500 万トンから 1,300 万トンのペットボトルがリサイクルされずに自然界に放棄され、「プラスチックごみ」として世界中の海洋に流出している現状があります。このプラスチックごみは、自然界に生息する生き物だけでなく、わたしたち人間の健康への影響も懸念されているため、本プロジェクトはペットボトルごみの削減を通じた海洋環境保護を重要な目的として取り組んでまいりました。

年間を通じて多数の観光客が訪れる関門海峡エリアにおいて、近年問題視されているオーバーツーリズムによる弊害の未然防止に対応し、観光客と地元住民双方が快適に過ごせる環境を構築することが重要であるとの認識がありました。そのため、地域内に給水スポットを設置し、マイボトル利用を促進することで、ごみ削減に貢献し、美しい海を保ちながら持続可能な観光を実現することを目指し、活動いたしました。

設置給水スポット一覧

門司港エリア：旧門司三井倶楽部、旧門司税関、旧大阪商船、大連友好記念館、門司港レトロ展望室、港ハウス、旧大連航路上屋、関門海峡ミュージアム、白野江植物園、潮風号、開門汽船、栄町商店街、三宜楼、門司電気通信レトロ館、九州鉄道記念館。

下関エリア：長府庭園、長府毛利邸、かもんワーフ、海峡ゆめタワー、旧秋田商会ビル、旧下関英国領事館。



事業名：多言語による観光資源の情報提供

訪日外国人旅行者からは、関門海峡エリアの観光資源に関する解説文が乱立している、あるいは表記が不十分であるため、観光地としての魅力が十分に伝わらないという声が寄せられておりました。この課題に対応するため、関門 DMO では観光庁が実施する「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」を活用し、デービット・アトキンソン氏（小西美術工藝社社長）の監修を受け、解説文作成などの事業支援を実施いたしました。

2023 年度は、日本遺産を中心に関門海峡エリア内の観光資源について、多言語での整備に着手し、まずは英語での整備を完了いたしました。これにより、旅行者にとって分かりやすく地域の観光ストーリーを伝える魅力的な解説文の整備を進めました。また、関門海峡の日本遺産に関する専門家とともに、文化・歴史のファクトチェックを行った上で英語翻訳を実施いたしました。

本年度（2024 年度）は、この取り組みをさらに進め、韓国語および中国語への翻訳を実施し、訪日外国人旅行者の受け入れ体制を一層強化いたしました。

THE HISTORY OF KANMON STRAIT



Like the Suez, Panama, Magellan, and Gibraltar, the Kanmon Strait is a vital waterway that has shaped the fate of a nation. For many centuries, this channel separating the islands of Honshu and Kyushu has been a key maritime seaway linking the Sea of Japan to the Seto Inland Sea. Countless generations of pilots and captains have heaved its treacherous reefs and fierce currents of up to 11 knots (20.3 km/h). The strait is approximately 15 nautical miles in length and 12 meters deep, and at its narrowest point has only half a kilometer of navigable width. The challenges of navigating its waters are intensified by its S-shaped bend, poor visibility, and narrow channel.

Geographically, the strait is relatively small in scale, but in geopolitical, historical, and cultural terms, it is a giant. Over the centuries, the waterway has been visited by saints, spies, and scholars. It has been witness to naval warfare and political upheaval, as well as the tragic death of an emperor. Over the centuries, it has gone by several names, including "Anato," "Bakau," and "Shimonoseki."

ORIGINS

Modern geologists estimate the Kanmon Strait was formed when the islands of Honshu and Kyushu separated roughly 6,000 years ago. However, Japanese myth states the Kanmon Strait was formed early in the third century, as Empress Jingū was traveling south to suppress uprisings by the Kumaso, a group of indigenous peoples who lived in what is now Kyushu. During her journey, Empress Jingū stopped at a cave called Anato. The cave miraculously split in two, and the great rent in the earth became the strait.

A HEIAN TRAGEDY

Toward the end of the twelfth century, Japan was plunged into conflict as the Taira and Minamoto clans became embroiled in the Genpei War (1180-1185). The conflict ended with the Battle of Dan no Ura, on the shore of the Kanmon Strait. The Taira warriors, realizing their inevitable defeat, threw themselves into the deadly currents rather than face the disgrace of capture. During the battle, the child emperor Antoku (1179-1185) plunged to a watery grave in the arms of his grandmother, Nii no Ama (1126-1185).

THE KANMON STRAIT FROM MUROMACHI TO EDO

During the Muromachi period (1336-1573), cargo ships heading for Ming China (1368-1644) often passed through the Kanmon Strait to land at Moji. At the time, Moji served as a licensed trading port overseen by the powerful Ōuchi warlords, who controlled a vast portion of northern Kyushu. In 1550, Jesuit missionary Francis Xavier (1506-1552) landed at Shimonoseki while en route to Kyoto to proselytize at the imperial court. After being swiftly rejected by the Buddhists at the capital, he and his supporters returned to what is now Yamaguchi Prefecture to continue spreading Christianity.

In 1592, the shogun and de facto ruler of Japan Toyotomi Hideyoshi (1537-1598) sailed into the strait on his way to Osaka. His ship entered the waterway at low tide, when the reefs were most dangerous, but Hideyoshi was in a hurry. He pressed onward, and his ship's hull ran aground, tossing him into the waves. He barely survived the ordeal.

In the early seventeenth century, renowned swordsman and philosopher Miyamoto Musashi (d. 1645) slew his opponent Sasaki Kojirō (dates unknown) in a duel on Ganryūjima Island. The story of their encounter is still retold today. During the subsequent centuries of the Edo period (1603-1867), Shimonoseki was a major port of call for westbound cargo vessels transporting kelp, herring, and other valuable commodities from Hokkaido and Tohoku to Osaka via the Kanmon Strait.

事業名：瀬戸内海国立公園（関門海峡）ストーリー検討業務

環境省が推進する「国立公園満喫プロジェクト」は、平成 28 年（2016 年）3 月に政府が策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」の一環として、国立公園を世界から目的地として選ばれる観光地へと高めることを目指しています。

日本初の国立公園である瀬戸内海国立公園は、昭和 9 年（1934 年）3 月 16 日に指定され、現在では 1 府 10 県にまたがる国内最大の海域型国立公園となっています。多島海景観や白砂青松の海岸、断崖絶壁などの自然景観のほか、神社仏閣などの歴史的文化財、温泉、漁村集落など、自然と人々の営みが調和した独自の景観が特徴です。近年は「瀬戸内国際芸術祭」などで国際的な注目も高まっており、「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」で三つ星を獲得するなど、国際的な評価も向上しています。

しかしながら、瀬戸内海国立公園においては、指定理由や管理方針は存在するものの、多様な資源をつなぐ明確なストーリーや、公園の優位性、利用者ニーズ、自然保護と利用が目指す姿が不明瞭であることが課題でした。そのため、強みを活かした効果的なプロモーションが十分にできておらず、地域との共通認識を醸成する「核」となるストーリーの明確化が求められておりました。

こうした背景を踏まえ、関門 DMO は環境省九州地方環境事務所からの受託事業として、瀬戸内海国立公園の最西端に位置する関門海峡地域におけるストーリー検討業務を実施いたしました。本業務では、公園のマーケット、自然、観光資源の掘り起こしと整理を行い、自然保護と利用の好循環のビジョン、自然と人の営み、地域の歴史文化を複層的に伝える魅力あるストーリーやブランディングテーマを明確にいたしました。これにより、当該公園への意識醸成と、地域の強みを活かした上質なツーリズムの実現に寄与いたしました。

本業務においては国立公園全体のストーリー検討を実施しましたが、今後は関門海峡地域など特定地域に焦点を当て、さらに深掘りした地域ストーリーの検討を進める予定です。

事業名：地域共通クーポン「かんもん Pay」事業

2023 年度、関門海峡エリアにおける地域周遊を促進するため、地域内で利用可能な共通クーポン「かんもん Pay」の提供を開始いたしました。このサービスは、一般的な地域通貨と同様に 10%の購入特典が付与され、1,000 円の購入で 1,100 円の利用額が付与される仕組みで運用いたしました。

本年度からは、ふるさと納税事業への対応を開始し、ふるさと納税を通じて地域への経済的還元を促進してまいりました。また、個人の観光客向け提供にとどまらず、旅行会社による団体旅行、修学旅行、さらには地域研修事業との連携など、多岐にわたる利用促進を進めております。

これらの取り組みは、「かんもん Pay」を核とした地域内消費の喚起を通じて、観光波及効果の最大化を目指したものです。関門 DMO は、地域共通クーポンの運用を推進することで、観光客の利便性向上に貢献するとともに、地域経済の活性化と持続的な発展に寄与する組織としての重要な役割を果たしてまいります。

3. エリアマーケティング事業

下関・北九州の2地域に分断されている関門エリアでは、これまで観光客の動向を包括的に把握することが困難な状況にありました。この課題に対応するため、私たちは両地域の来訪者データを統合し、共通基準による観光客の行動パターンと属性の可視化を推進してまいりました。このデータ統合により、関門エリア全体の観光市場を一体的に捉えることが可能となり、地域マネジメントの高度化に貢献しています。

事業名：観光入込客数の把握と分析基盤の構築

関門海峡エリアへの来訪者実態を把握するため、日本観光振興協会が提供する「デジタル観光統計オープンデータ」の活用を開始いたしました。このデータは、日本国内に居住する観光目的の来訪者を対象としており、近隣エリアや通勤目的の来訪者を除いた入込客数を把握することができます。これにより、日常生活圏以外の観光地点を訪れた者を一元的に把握することが可能となりました。今後は、本データを基にしたマクロレベルの周遊データの分析を行い、観光客の実態をより詳細に把握し、周遊促進の取り組みに活用してまいります。

事業名：観光 DX 対応とデータ分析基盤の構築

関門海峡エリアの周遊を促進するコンテンツの造成を進め、国内外のオンライン旅行会社（OTA）を活用した販路拡大を実施いたしました。具体的な取り組みは以下の通りです。

- ・ 関門周遊フリーパス：2024年11月から2025年1月までの期間において提供いたしました。
- ・ かんもん PAY ふるさと納税返礼品：2024年11月より、ふるさと納税の返礼品として提供を開始いたしました。
- ・ JTB BOKUN コンテンツ磨き上げ：2024年11月より、JTB BOKUN を活用したコンテンツの磨き上げを実施いたしました。

これらの販売・利用データは、DMP（データマネジメントプラットフォーム）へ蓄積・分析を行い、地域全体でのマーケティングおよびデータ利活用の推進体制を構築いたしました。これにより、地域一体となってマーケティングPDCAサイクルを回す環境を構築いたしました。可視化されたデータを基に、限られた資源を最大限に活用し、効率的かつ効果的な観光誘客を図り、関門エリア全体の観光促進と地域経済の活性化に貢献してまいります。

4. 地域観光商品の開発

着地型ツアーの造成や交通機関との連携による観光客誘致施策を実施し、地域の皆様と共同で旅行商品の開発を進めることで、地域観光商品の充実を図ります。造成するコンテンツには、関門海峡エリアの歴史・文化や産業を中心とした日本遺産コンテンツ、近代的な建造物を活用した「インフラツーリズム」、瀬戸内海国立公園などの自然文化を活用した「アドベンチャーツーリズム」が含まれます。多様な観光資源を効果的に活用して地域の魅力を広く発信し、観光客の訪問を促進します。

事業名：世界初の防災体験施設を常設！観光を入口にした防災体験プログラム

国内外で関心が高まる防災・危機管理のニーズに応えるため、港湾・観光都市である門司港の関門海峡ミュージアム内に、体験型防災コンテンツを造成いたしました。これは、楽しく学べる防災訓練「インパーソン型防災アトラクション」と、常設施設としては世界初となる流動床インターフェースを活用した「液状化通路歩行体験施設」の設置によるものです。

本事業は、観光の街・門司港および関門海峡エリアへの新しい来訪目的を創出し、観光と防災のコラボレーションを通じて、SDGs 未来都市・北九州市ならではの持続可能な観光地「住んで良し！、訪れて良し！」の街づくりを推進します。

本事業においては、2024年10月から2025年2月にかけて、液状化通路歩行体験の実証実験を実施し、その後も継続して運営を行っております。

2024年10月9日には鎮西敬愛高校の生徒100名が参加するオープニングイベントを開催し、テレビ取材も行われるなど、高い注目を集めました。加えて、広範な啓発活動の一環として、2024年10月29日にはJC糸島主催の「防災フェス糸島」に出張イベントとして参加、さらに同年11月23日には門司区役所主催の防災イベントにも参加いたしました。

事業名：非公開エリア特別見学！世界に誇る関門海峡インフラツーリズム造成事業

関門海峡エリアにおける持続可能な観光の推進と新たな観光価値の創出を目指し、関門海峡を結ぶ重要なインフラである関門国道トンネル・関門鉄道トンネル（通常は一般非公開）の特別見学を核としたインフラツーリズム造成事業を実施いたしました。

本事業では、これら非公開エリアの特別見学を目玉コンテンツとして、さらに船や灯台なども含めた関門海峡ならではの特別体験コンテンツを造成しました。インフラを単

なる交通手段としてだけでなく、観光資源として積極的に活用することで、地域ならではの魅力、そしてこの地域に来なければ体験できない唯一無二の商品を開発いたしました。

このインフラツーリズムは、地域の基盤となる施設への理解を深める機会を提供するとともに、既存の観光資源に新たな視点を加えることで、より多角的で深みのある観光体験を創出します。これにより、観光客の満足度向上に加え、地域の歴史や技術、生活への理解促進にもつながり、持続可能な観光地としての関門海峡エリアの魅力を高めることに貢献しています。

事業名：北九州空港からのフライ & クルーズ

関門 DMO は、関門汽船からの委託を受け、北九州空港から関門エリアへの新たなアクセスと観光体験を創出する旅行商品の造成および販売を実施いたしました。

実施期間: 2025 年 3 月 27 日～29 日

航路: 北九州空港と門司港・唐戸間を往復する海上ルートで運航

実績: 387 名（うち 70 名は韓国からの旅行者）

現在、北九州空港から門司港・唐戸への公共交通機関による直接アクセスルートは存在せず、約 120 分の所要時間で小倉駅を経由する必要がありました。本事業では、空港と関門エリアを船で直接結ぶことにより、海上からの観光を楽しみながら移動できる新たな選択肢を提供し、所要時間を約 60 分に短縮いたしました。この取り組みは、観光客の利便性向上と関門エリアへの誘客促進に大きく貢献すると考え、今後も本実証結果を踏まえ、今後の取り組みへ活かしてまいります。

事業名：門司港レトロ地区の混雑緩和を目的とした旅行商品の造成

門司港レトロ地区・9 施設の指定管理者である門司港共創プロジェクトチーム共同事業体からの委託を受け、混雑緩和を目的とした旅行商品の造成を実施いたしました。

- ・ JR 九州を活用した特別列車のチケット販売：「36 ぷらす 3」でいく！第 37 回関門海峡花火大会観賞ツアーのチケットを販売いたしました。
- ・ 関門海峡ミュージアム前 事前予約枠のオンライン販売：席数限定の事前予約枠をオンラインにて販売いたしました。

事業名：日本遺産を活用した観光活性への取り組み

関門海峡は、日本遺産「関門“ノスタルジック”海峡 ～時の停車場、近代化の記憶～」に認定されています。この日本遺産は、北九州市および下関市の両市が連携して近代化遺産群を一つのストーリーとしてまとめ、その歴史的・文化的な価値を伝えています。

関門海峡の日本遺産は、幕末の下関戦争を契機とした近代化の記憶を残す建築物や灯台、外国船が行き交うノスタルジックな景観、下関市と北九州市による「関門海峡日本遺産協議会」を通じた兩岸の連携、そして六連島灯台や旧下関英国領事館などの構成文化財を特徴としています。

関門 DMO では、この歴史的価値に加えて、美しい景観、文化、食といった多岐にわたる魅力を持つ日本遺産を活かした観光コンテンツの開発に取り組んでいます。

その一環として、今年度は特にレンガに着目した観光促進活動を実施いたしました。レンガは明治期の近代建築において多様な特徴を現し、その様式や積み方、色合いなどから当時の技術や時代背景を読み解くことができる重要な要素となります。この取り組みの成果として、今年度は取り組みをまとめたレンガをテーマとした冊子を出版し、販売を開始いたしました。



紙面イメージ

事業名：地域固有の日常と文化を巡る周遊促進事業

関門 DMO は、関門海峡エリアのローカルな魅力を引き出し、観光客の回遊性向上を目的として、特別なガイドとともに街歩きを楽しむ着地型観光ツアーを造成しています。このような取り組みは、通常の観光資源として焦点が当てられない地域の日常の風景や、そこに暮らす人々の営みといった、等身大の地域の様子に触れる機会を提供します。

その一環として、今年度は「【海峡都市関門 DMO 公認】画家・牧野伊三夫と描く、門司港スケッチツアー」を実施いたしました。

本ツアーでは、北九州市出身の画家である牧野伊三夫氏を案内人として招聘いたしました。牧野氏は画家としてのご活動に加え、北九州市の魅力を発信する情報誌『雲のうえ』の編集委員も務められるなど、街歩きにおいても高い専門性を有しています。参加者は、牧野氏によるスケッチレクチャーを受けながら門司港の風景を自由に描く体験に加え、牧野さんの視点を通して門司港の新たな魅力や、これまで気づかなかった良さを再発見する旅となりました。



今後もこのようなローカルの魅力を引き出し、関門海峡エリアの回遊性を高める取り組みを継続して実施してまいります。

5. 地域住民に対する観光地域づくりに関する取り組み

地域住民の皆様が観光地域づくりに積極的に参画し、その意義への理解を深めることを目的として、意識啓発や参画促進のための各種プログラムを実施いたしました。観光に関するセミナーや勉強会、教育プログラムなどを開催し、地域の皆様とともに持続可能な観光のあり方について検討を進めてまいりました。これらの活動を通じて、地域住民と観光客が共存し、ともに地域の魅力を高めていくための基盤を強化するとともに、これらの取り組みは、次代を担う地域の子供達に対して、地域への深い理解と誇りを持つ機会となると考えています。

事業名：小学生との観光用タブロイド紙制作を通じた地域共創事業の実施

関門DMOでは、関門海峡エリアの持続可能な観光の実現に向け、小学校の総合学習の一環として、地域を紹介する観光ガイドを制作する教育プログラムを実施しています。本プログラムでは、地域で活躍するプロのクリエイターを講師に招き、地域の小学生が地域を取材し、原稿執筆、写真撮影、イラスト制作、紙面レイアウトに取り組みます。その成果として観光用タブロイド紙を制作し、英語に翻訳して地域の駅舎や観光施設で訪日外国人にも配布するプログラムとなっています。

このプログラムは、小学生の視点で関門海峡エリアの地域資源を紹介することで、地域の愛着を深め、地域社会や文化・環境への理解を未来につなげることを目的としています。また、子どもたちが地域の観光資源や歴史的な文化に触れることで、子どもたちだけでなく、その両親や地域住民にとっても地域理解を促進し、地域への愛着と資源への配慮を育むことを期待しています。



本年度は長府エリアとの連携を強化し、関門海峡を超えた観光の可能性を広げる取り組みを実施いたしました。今後も、地域の持続的な発展に寄与することを目指してまいります。

事業名：その他、授業やセミナー等の取り組み

○出前授業

- ・ 豊浦小学校（2024 年 6 月 14 日）
- ・ 下関市役所教育委員会（2024 年 7 月 28 日）

○夢授業

- ・ 北九州市立大積小学校（2024 年 7 月 1 日）
- ・ 下関市立向洋中学校（2024 年 9 月 13 日）
- ・ 下関市立熊野小学校（2024 年 12 月 9 日）
- ・ 北九州市立松ヶ江北小学校（2025 年 1 月 20 日）
- ・ 北九州市立藤松小学校（2025 年 1 月 22 日）
- ・ 北九州市門司中央小学校、門司海青小学校、小森江小学校（2025 年 2 月 21 日）
- ・ 北九州市立大里東小学校（2025 年 2 月 26 日）

○マイナビ ツール・ド・九州 2024 探究学習

- ・ 九州国際大学付属高等学校 2024 年 8 月 28 日（出張講義）
- ・ 西南女学院高等学校 2024 年 9 月 9 日（出張講義）

○折尾愛真短期大学 非常勤講師

- ・ 2024 年 9 月～2025 年 1 月 講義 15 回(商品開発：観光商品・旅行商品)

○関門連携委員会（中国・九州経済連合会）

- ・ ワークショップゲスト参加